

ほたる

ゆうべの暉をさまりて

まづ暮れかゝる草陰に、

わづかに影を点せども、

なほ身を恥づるけしきあり。

羽虫を逐ふて細川の、

浅瀬をはしる若鮎が、

静まる頃やほたる火は、

低く水辺をわたり行く。

腐草に生をつくる身の、

かなしや月に照らされて、

もとの草にもかへらずに、

たちまち空に消えにけり。